
天霊魔戦記（仮）

木の人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天霊魔戦記（仮）

【Nコード】

N5700Y

【作者名】

木の人

【あらすじ】

無数に広がる世界の1つに3つの種族がいた、この世界で生きる少年は何を見るのか……

完全なオリジナルです、暇な時にでも読んでもらえたら嬉しいです

今の所このタイトルにしますがもしかしたらタイトルが変わるかも

しません

プロローグ（前書き）

どうも、木の人です。

完全なオリジナル小説ですのでグダグダになるかもしれませんがよろしくお願いします

プロローグ

…無数に広がる世界…そのとある世界に3つの種族がいた…

物理戦闘、魔法戦闘を平均的にこなす^{ヒューマン}霊族

魔法戦闘を得意とする^{セイン}天族

物理戦闘を得意とする^{ダークス}魔族

この3つの種族は自らの国を作り比較的平和に過ごしていた…
…のだが

ある日、魔族が霊族・天族に対して宣戦布告をした。この事態に
霊族、天族は同盟を結び魔族を迎え撃ち戦いを始めるのだが…各
々が得意とする戦い方によりすぐには決着がつかなかった…

この戦いが長引いたことにより互いの種族は戦力を取り戻すため
一時的な休戦に入る、失った戦力を取り戻すために霊族と天族はと
ある職種と学園を作ることを決めた。その職種の名は「^{れいきし}霊騎士」と天
^{んきし}騎士】学園の名は「^{てんれいがくえん}天霊学園】

学園設立から数十年後…初めは戦力補強のためだったが長い休戦状態のせいで徐々に薄れていき今では騎士を夢見る15を過ぎた子供たちが日々訓練に励むようになっていた…

そして…この学園に一人の少年がいた…

「う…ふぁ…朝…か」

「やっと起きたか、さっさと行かねえと遅刻になるぜ？」

とある部屋にベットの上で眠そうにしている黒髪の少年と部屋を出る準備ができている金髪の少年がいた

「…おう…すぐ支度すつから…待ってる…」

「眠そうだな…おい」

「うるせえ……………出来た」

「早え!!」

「朝から騒ぐな、行くぞ」

「はいはい」

…この物語は天霊学園に入学している一人の少年の物語である…

プロローグ（後書き）

主人公の名前などは次の話で明かされます

観覧ありがとうございました

1話（前書き）

今回は主人公とその仲間を書きました

多分グダグダになっていない……はずです

1話

ある学園に続く道を二人の少年が歩いている、一人は黒髪の短髪、もう一人は長髪で髪の色が金髪の少年

「ふあゝゝ寝たい……」

「毎度のことながら寝るのが好きだなお前」

「当たり前だ、あの布団のフカフカ加減はやめられねえ……………帰って寝る」

「帰るな!!」

俺が来た道を戻ろうとするとガシツツと襟を掴まれた、帰らせろよ

「離せ『シオン』、布団が俺を呼んでんだ」

「呼ばれんのは寝る時か女いるときに呼ばれろ、第一俺がお前をさばらせると思ってるのか? 『想夜^{そんや}』?」

「……………ないな」

「だろ、というわけでさっさと学園に行くぞ」

「機嫌良いなお前」

「今日は実習の日だろうが　やっとなぜ」

「お前に会ってから何回も言ってるがお前本当に天族か？」^{セイン}

隣にいるこいつ…『シオン・ガルダス』は天族^{セイン}と呼ばれる種族だ、本来の天族は自分から戦いを挑むのはあまり好まないらしいがシオンはその逆…戦いが大好きで自分から挑みに行くいう変わり者

「どっからどう見ても天族だろ？　まあこの性格のおかげでかなり浮いてるがな」

「だったらその性格直せよ」

「やだね」

「…はあ…お前のせいで実習の度に早く起きなきゃいけないだ…いいからさっさと直せ」

「やだね　俺から戦いを盗ったらなんもないしな」

「……………帰る」

「だから帰るな！！」

また襟を掴まれた、かなり首がイテエんだが…

「たく…俺からも言わせてもらうがお前は寝ることしか頭にねえのか？」

「そうだがなんか文句あるか？」

「はあ…お前は霊族だろ？　少しはやる気出せよ」

「出るわけねえだろ…俺が他の奴と違うのは知ってるだろ？」

「あれだろ、『霊力』が俺達1年の中で上位なのに、『れいじゆつ霊術』が使えないって奴だろ？」

「ああ…そのせいで俺も浮いてんだよ」

何故か知らねえが俺は『霊術』と呼ばれる魔法が使えない…それを使うための源である『霊力』はあるんだがな…

「おかしな話だよな、霊力あるのに霊術が使えないってのは」

「ああ、他の奴らの見下した視線がウゼエがもう慣れた」

「それならいいじゃねえか、ほらさっさと行くぞ」

「引つ張んな！　シオン！」

「さ…て、実習が楽しみだ」

「おい聞いてんのか！ さっさと離せ！」

そのまま俺はシオンに引つ張られ通っている学校…『てんれいがくえん天霊学園』
に向かった

「着いたぜ想夜」

「いいから離せ！ 首イテェんだ」

「お、ワリイ」

俺達の教室の近くでやつと詩音が俺を離した、首イテェな…本当に…

「たく…仕方ねえな、教室入るか」

「だな、そしてそのまま実習へ」(笑)

「実習実習するせえ」

ガラッと教室のドアを開ける、俺とシオンが入ると……

「2人ともおっはよ」

黒い髪をツインテールにしている女子が話しかけてきた

「よう『璃菜^{るな}』、おはようさん」

「シオンおはよ」 想夜は相変わらず眠そうだね」

「ああ眠い、そしておはよう璃菜」

「うん、おはよ」

こいつは『水怜瑠奈^{すいれんな}』、俺と同じ霊族で昔からの知り合い……いわゆる幼馴染だ。ついでに言うとシオンは此処に入学するときに知り合った

「瑠奈、『アキナ』はまだ来てないのか？」

「多分もつすぐ来るんじゃないかな」

「そんでよ、お前実習の時はアキナと組むのか？」

「うん、シオンは想夜と？」

「当たり前だろ、同じ浮いてる者どおし、組めば最強ってな」

「俺は迷惑してるがな」

「でもコンビネーションは良いよね、想夜とシオン」

「それはお前たちもだろ」

俺とシオン、瑠奈の3人が適当に話していると赤色の髪で短髪の少女が教室に入ってきた

「おっはっよ」

「アキナ、ギリギリだよ」

「ごめんごめん、瑠奈、今日の実習の時はよろしくね」

「こっちこそよろしくね、アキナ」

瑠奈と話しているのは『アキナ・トライス』、瑠奈が此処に入学

した際に出会って幼馴染だからと言う理由で俺も知り合うことになった

「ん、そろそろ席に着いとくか」

「そうだな」

「うん」

俺達が自分の席に座って少し経つと教室に軽装の鎧を着た男が入ってきた

「よくお前ら全員いるな、今日は実習の日だ、2人組になってグラウンドに行けよ」

「はい！」「」「」「」「」

その一言でクラスの奴らはペアを組み教室から出て行く

「想夜、今日も頼むぜ」

「仕方ねえな」

「溜奈頑張ろう」

「うん」

俺達もペアを組みグラウンドに向かうことにした…

1話（後書き）

観覧ありがとうございました

キャラ設定は明日投稿したいと思います

キャラ設定（前書き）

簡単ですがキャラ設定です

キャラ設定

名前 黒河 想夜
くろかわ そうや

年齢 16

性別 男

天霊学園に通っている霊族の少年。てんれいがくえん ヒューマン 1年生の中では霊力が上位に入るほどだが霊術が使えない。

水怜 瑠奈とは幼馴染の関係
すいれん るな

名前 シオン・ガルダス

年齢 16

性別 男

想夜と同じクラス及び同じ部屋の天族の少年。セイン 周りの天族とは違い戦いが好きと言う変わり者なため周りから浮いている

想夜とは入学した時に出会い仲の良い関係

名前 水^{すい}怜^{れん} 瑠^る奈^な

年齢 15

性別 女

想夜と幼馴染の霊族の少女。想夜はもちろん、シオンとアキナとも仲が良い

名前 アキナ・トライス

年齢 15

性別 女

アキナと仲が良い天族の少女。こちらも想夜、シオンとも仲が良い

キャラ設定（後書き）

小説が進むにつれキャラ設定も更新します。

これからよろしくお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5700y/>

天霊魔戦記（仮）

2011年11月21日06時56分発行